

KCM Concert at Tokyo Bunka Kaikan



ターリヒ・カルテット 創立60周年記念日本公演

ロータス・カルテット ターリヒ・カルテット メンデルスゾーン・プロジェクト

Lotus Quartet & Talich Quartet
Mendelssohn Project

Talich Quartet 60th Anniversary Japan Tour

メンデルスゾーン Mendelssohn

弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 ※L
String Quartet No.2 in A Minor op.13

弦楽四重奏曲 第6番 ヘ短調 ※T
String Quartet No.6 in F Minor op.80

弦楽八重奏曲 変ホ長調 op.20 ※L&T
String Octet in E-flat Major op.20

L:ロータス・カルテット T:ターリヒ・カルテット

2024.

11.10

日 14:00開演
(13:30開場)

Sunday 10 November 2024 14:00 at Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

入場料(全席指定・税込)

●S:¥6,500 A:¥4,500 ※車椅子席は、A席エリアにございます。

●学生(前売のみ限定数・当日座席指定 13:15より座席券交換・学生証提示要) ¥3,000

※座席表は、コジマ・コンサート オフィシャルサイトの当該公演ページでご覧いただけます。



ブラハの春国際音楽コンクール会長、
ブラハの春国際音楽祭芸術委員等の要職にある、
チェコが誇る名チェリスト、ミハル・カニユカが東京藝術大学教授でもある
日本を代表する2人の国際的な名手たちと展開するピアノ・トリオの世界。

ミハル・カニユカ ピアノトリオ・プロジェクト

Michal Kaňka Piano Trio Project

ピアノ:伊藤 恵 ヴァイオリン:漆原朝子 チェロ:ミハル・カニユカ
Kei Itoh, Piano Asako Urushihara, Violin Michal Kaňka, Cello

ベートーヴェン:

ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 op.97 「大公」
Beethoven: Piano Trio in B-flat Major op.97 "Archduke"

チャイコフスキー:

ピアノ三重奏曲 イ短調 op.50

「偉大な芸術家の思い出に」

Tchaikovsky: Piano Trio in A Minor op.50 "A la mémoire d'un grand artiste"

2024.

11.18

月 19:00開演
(18:30開場)

Monday 18 November 2024 19:00 at Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

入場料(全席指定・税込)

●S:¥6,000 A:¥4,000 ※車椅子席は、A席エリアにございます。

●学生(前売のみ限定数・当日座席指定 18:15より座席券交換・学生証提示要) ¥2,500

※座席表は、コジマ・コンサート オフィシャルサイトの当該公演ページでご覧いただけます。

東京文化会館 小ホール

JR上野駅 公園改札より徒歩1分

※未就学児のご入場はご遠慮願います。※やむを得ない事情により、演奏曲目等が変更となる場合でも、公演中止以外での入場料金の払戻は致しません。※公演当日配布プログラムに楽曲解説の掲載はございません。
※ご購入に際して発生する諸手数料等は御購入者様の負担となります。※本公演は指定席制にて開催致しますが、諸般の事情により、御座席の移動をお願いする場合がございます。ご了承下さい。

ご予約・お問い合わせ

KCMチケットサービス ☎0570-00-8255 | 03-5379-3733 <https://www.kojimacm.com> (インターネット予約・年中無休)
コジマ・コンサートマネジメント内 Kojima Concert Management Co.,Ltd (平日10:00~18:00/土日祝休業) 本社・関西事務所 072-887-2560

◎東京文化会館チケットサービス 窓口(10:00~19:00/休館日を除く) ※キャッシュレス決済も可能 ☎03-5685-0650(10:00~18:00/休館日を除く) <https://t-bunka.jp>

◎イープラス <https://eplus.jp> ◎ローソンチケット <https://l-tike.com> ◎チケットぴあ <https://t.pia.jp/> ※クレジットカードでもお買い求めいただけます。※コンビニエンスストアでも清算・受取出来ます。

主催/コジマ・コンサートマネジメント 後援/公益財団法人 日本室内楽振興財団、毎日新聞社 制作協力/KAJIMOTO(11/18公演のみ)

●お得な2公演セット券 S: ¥9,900 (税込)
KCMチケットサービスにて取扱・前売のみ限定数

アーティスト情報は
ウェブで!
<http://www.kojimacm.com>
をご覧ください。





ターリヒ・カルテット Tálich Quartet

ターリヒ・カルテットは半世紀以上にわたって一流演奏家としてその進化を続けており、世界中でチェコの音楽芸術を代表する存在である。

何十年の間、ターリヒ・カルテットは世界でも特に優れた弦楽四重奏団のひとつとして、また、偉大なチェコ音楽の伝統を体現する存在として、国際的に認知されてきた。同カルテットはヤン・ターリヒ・シニアがブラハ音楽院在学中の1964年に設立。彼の叔父でチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者（1919～

1939）として名を馳せたヴァーツラフ・ターリヒへの敬意をこめて名づけられた。1990年代徐々に進んだ交代で完全にメンバーは入れ替わり、すっかり新しくなったカルテットだが、幅広い音楽活動とレコーディング活動によって先達の伝統を守り続けている。現在第1ヴァイオリンを務めるヤン・ターリヒ・ジュニアは創設者の子息である。

パプロ・カザルス音楽祭（プラード）、ブラハの春音楽祭、ユーロパリア・フェスティバル、ブランドン・デ・ザール（モンテカルロ）、ティボー・ヴァルガ音楽祭、オタワ国際弦楽四重奏フェスティバルなど、名だたる室内楽フェスティバルの常連で、マルタ芸術祭、クフモ室内楽フェスティバル（フィンランド）にも参加。

また、ニューヨークのカーネギー・ホール、パリのシャンゼリゼ劇場とサル・ガヴォー、ロンドンのウィグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウといった著名ホールでの演奏も続けている。

主なディスコグラフィとしては、2001～2004年にかけてカリオペからリリースされ広く称賛を集めたメンデルスゾーンの弦楽四重奏曲全集や、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲《アメリカ》と弦楽五重奏曲第3番（2003年）、スメタナの2つの弦楽四重奏曲（2003年）、シューベルトの《死と乙女》とドヴォルザークの弦楽五重奏曲のライブ録音（2004年）などがある。ヤナーチェクの弦楽四重奏曲はグラモフ・アワード2006年室内楽部門最優秀録音に、弦楽四重奏団としては唯一ノミネートされた。

2015年5月にはドヴォルザーク弦楽四重奏曲第10番・第11番のCDがBBCミュージック・マガジンの五つ星を獲得。更に、フォーブス誌2014年12月号は、ヤナーチェクとシュルホフの弦楽四重奏曲の録音をクラシック音楽（再発版）部門の2014年第2位に選出。近年は、スメタナ、ドヴォルザーク、ヤナーチェク、カリヴォダ、フィビス、シュルホフ、シューベルト、ブラームス、ドビュッシー、ラヴェル、ショスタコーヴィチなどを録音している。

2018年にはヴィオラのグラディミール・ブカチュが離脱し、その後任としてラディム・セドミドゥプスキ（シュカンパ・カルテット、パヴェル・ハース・カルテットの元メンバー）が加わり、さらに2019年からはチェコを代表する世界的チェリストでブラハの春国際コンクール会長・同音楽祭芸術委員をも務めるミハル・カニユカが参加することとなり、より強固な体制を確立。欧米各国で活発な演奏活動を展開。2024年秋には創立60周年記念日本ツアーが予定されている。



ロータス・カルテット Lotus Quartet, Stuttgart

1992年結成。1993年 大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門で第3位入賞。1995年 ドイツ・シュトゥットガルト音楽芸術大学に入学。メロス弦楽四重奏団に師事。すでに日本国内での活躍が約束されていた若い音楽家たちが、そのキャリアを断ち切って、弦楽四重奏の世界を極めるべく、そろってドイツに留学していったことは過去に例がなく、大きな注目を浴びた。

メロスは勿論のこと、アマデウス弦楽四重奏団やラ・サール弦楽四重奏団など、二十世紀を代表する名カル

テットからの厚い指導と信頼を一身に受けたロータス・カルテットは次第に本場ヨーロッパで頭角を現し、難関ロンドン国際弦楽四重奏コンクールでメニュエイン特別賞、パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールで第3位特別賞、さらにドイツBDI音楽コンクール弦楽四重奏部門で第1位を受賞。これを機に、ワーナー・テルデックと録音契約を結び、CDを世界にリリースするなど、以後今日までシュトゥットガルトを拠点に極めて充実した演奏活動を展開。2005年からはロータスと同じく、メロスやアマデウス、ラ・サールに学んだマティアス・ノインドルフがロータス・カルテットの第2ヴァイオリン奏者として加入し、アマデウスやメロスの伝統を全く正統に継承して活動続ける貴重な弦楽四重奏団として、本場ドイツにおいて安定した評価を得る成熟した弦楽四重奏団に成長した。

2006年にはシューマン没後150周年記念『シューマン：弦楽四重奏曲全曲演奏会』を東京と関西で開催。同時期にリリースされた『シューマン：弦楽四重奏曲全集』CDが平成18年度文化庁芸術祭 優秀賞受賞。2008年には10公演に及ぶ日本縦断ツアー、2010年シューマン生誕100周年に際しては札幌コンサートホールと名古屋 宗次ホールからの招きにより『シューマン：弦楽四重奏曲全曲演奏会』を行う。2012年には結成20周年記念日本ツアーを挙行。特に大阪では、国際的活動への出発点となつたいづみホールにおいて、ゲストにセバスティアン・マンツ（クラリネット）を迎え、オール・ブラームス・プログラムによる結成20周年記念演奏会を開催。その模様はNHK-TV及びFMにおいて放送されたほか、同時期に発売された『ブラームス：弦楽四重奏曲op.51-1&2』『シューベルト：弦楽五重奏曲（チェロ：ペーター・ブック）&ウェーバーン：作品集』がいずれも『レコード芸術』誌で『特選盤』に選ばれるなど各新聞・雑誌において激賞された。2017年には横浜でベートーヴェン全曲ツィクルスを行い、2018年には東京・名古屋・神戸でのベートーヴェン後期作品全曲ツィクルス（3公演×3都市）、東京・京都・広島でのシューマン全曲演奏会を含む16公演の日本ツアーを17日間で完結した。

2022年にはマティアス・ノインドルフの引退に伴い、ライナー・シュミット（ハーゲンQ）ペーター・ブック（メロスQ）に学んだスヴァンティエ・タウシャーが新たに加わることになり、ドイツ弦楽四重奏の伝統は引き継がれることとなった。

ロータス・カルテットは日本発祥ながらドイツを本拠とする国際的な常設弦楽四重奏団として、すでに30年以上のキャリアを誇り、今やドイツにおける弦楽四重奏の伝統的精神を受け継ぐ稀有な存在である。

伊藤 恵 (ピアノ) Kei Itoh, Piano



©武藤章

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグراف氏に師事。エビナル国際コンクール、J.S.バッハ国際音楽コンクール、ロン＝ティボー国際音楽コンクールと数々のコンクールに入賞。1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮

バイエルン州立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。

その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響（現hr響）、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響をはじめとする各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアーナ1～13」。2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シューベルト ピアノ作品集1～6」は1作ごとに注目を集め、第6集は2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2018年にリリースされた「ベートーヴェンピアノ作品集1」、最新盤の「ベートーヴェンピアノ作品集2」（フォンテック）は、いずれもレコード芸術特選盤を獲得。

また、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加、武生国際音楽祭ではコンサートプロデューサーを務める。1999年から2006年までの8年シリーズではシューマンを、2008年から2015年4月までの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催し好評を博した。2018年からはベートーヴェンを中心としたシリーズを開始。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市民文化賞奨励賞受賞。2018年ジュネーヴ国際音楽コンクールの審査員も務めた。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

漆原朝子 (ヴァイオリン) Asako Urushihara, Violin



©Naoya Yamaguchi, studio Diva

東京藝術大学附属高等学校在学中に日本国際音楽コンクールで最年少優勝。ジュリアード音楽院卒業。1988年NHK交響楽団定期公演でデビュー、ニューヨークでのリサイタル・デビューも絶賛を博す。

マールボロ音楽祭でルドルフ・ゼルキン、リチャード・グールド等と共演、ザルツブルク音楽

祭などにも登場するなど欧米各地で活躍、また国内外のオーケストラとの共演も数多い。

2003年以後 シューマンとブラームスのヴァイオリンソナタ全曲ライヴCDを相次いでリリースして極めて高い評価を得る。

2006年には シューマン没後150周年を記念してヴァイオリンソナタ全曲演奏に加えて、大阪センチュリー交響楽団（現日本センチュリー交響楽団）シューマン：交響曲全曲ツィクルスにおいて、遺作のヴァイオリン協奏曲を演奏して注目と賞賛を得る。

2008-09年にはベリー・スナイダー、ロータス・カルテットと共に『シューベルト：ヴァイオリン作品集』をレコーディング。スナイダーとは長年にわたってデュオを組んでおり、2009年にオール・シューベルト、2010年には生誕200周年記念 シューマン・プログラムなどテーマ性をもったリサイタルツアーをその後も行っている。また、2012-13年には東京と大阪でベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ全曲ツィクルスを行い、聴衆にひとときわ深い感銘を与えた。英国人指揮者 ジョセフ・ウォルフとは、ライフワークであるエルガー：ヴァイオリン協奏曲を度々共演しており、2017年 兵庫芸術文化センター管定期演奏会（三公演）との共演はライヴレコーディングCDとしてリリースされて話題となり各方面より好評を得ている。

平成26年度 文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。現在、東京藝術大学教授、大阪音楽大学特任教授。

ミハル・カニユカ (チェロ) Michal Kaňka, Cello



1960年ブラハ生まれ。ミルコ・シュカンパの指導により7歳でチェロを始め、ブラハ音楽院でヴィクトル・モウチュカ（ヴァラ弦楽四重奏団）の下で研鑽を積む。ヨセフ・フッフロ（スク・トリオ）の下で学んだブラハ芸術アカデミー時代の1983・84年には、グレゴール・ビアティフスキ・セ

ミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モーリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエらの指導を受けた。1980年ブラハの春国際音楽コンクールで名誉賞受賞。翌年、チェコスロヴァキア（当時）国内コンクールでグランプリを獲得。1982年チャイコフスキー・コンクール、1983年ブラハの春国際音楽コンクール（第1位）などで上位入賞を果たす。1986年にはミュンヘン国際音楽コンクールの勝者となった（第1位なしの第2位）。カニユカは、チェコ・フィル、ブラハ放送響、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ローザンヌ室内管、ブラハ室内管、ブラハ室内フィルなどのトップ・オーケストラとも共演を重ね、リサイタルも世界各国で開いてきた。また、ブルノ・フィルでは1995年以来定期的にソリストとして客演を続け、ブラハ放送響では2003年から指定ソリストとして活躍している。その演奏は放送で度々紹介されていることはもちろん、CDも多数リリースしており、いずれのレコーディングも数々の受賞を得るなど極めて高く評価されている。室内楽分野でもその活動は精力的で、1976年にマルティヌー・カルテットを結成。1986年～2022年までブラジャーク・カルテットのメンバーとして、世界中の主要なコンサートホールに立ち、数々のCDを録音している。2017年からはウィハン・カルテットのメンバー、さらに2019年からはターリヒ・カルテットのチェリストを務めている。使用楽器はフランスのクリスチャン・バヨン2006年製で、同じくフランスのニコル・デュシュリュエ2000年製の弓を使用する。現在、ブラハの春国際音楽コンクール会長、ブラハの春国際音楽祭芸術委員などの要職を務めており、まさにチェコを代表する音楽家として揺るぎない評価と地位を獲得している。